

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 9月 20日

氏名 (フリガナ)	細川 由梨子 (ホソカワ ユリコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	京都府立医科大学
学年	6年

この度は、このような大変貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

私がこの研修に参加させていただきたいと思った大きなきっかけは、ふたつありました。

ひとつ目は、昨年7月にアメリカのオクラホマ大学で、約4週間、臨床実習に参加させていただいたのですが、その際に自分の力不足を痛感したことです。出国前に、必要最低限の日常英会話、医学英語は勉強したつもりでしたが、現地では全く通用しませんでした。また、日常英会話、医学英語ともに、現地で実際に英語に触れることによって初めて吸収できたことが多く、やはり英語を習得するには、再びアメリカに行く必要があると感じました。

ふたつ目は、「プレゼンテーション能力を向上させたい、人に自分の考えを的確に伝えられるようになりたい」と常々、考えていたことです。日本、アメリカでの臨床実習を通して、プレゼンテーション能力の重要性を日々、感じていたのですが、私は声が小さいこともあって、日本語でのプレゼンテーションでさえ苦手意識がありました。1週間という短い期間ではありますが、何度も何度もプレゼンテーションを行うことを求められる環境に身を置くことで、少しでもプレゼンテーションに対する苦手意識が改善できるのではないかと考えました。

ひとつ目の「日常英会話、医学英語の習得」に関しては、研修を通して学んだことも多かったのですが、他の参加者の英語のレベルが非常に高く、やはり自分の力不足を感じ、今後もさらなる努力を重ねていくことを決意しました。また、ほとんどの参加者が5回生でしたが、私が5回生のころと比べものにならないほど、医学知識のレベルが高く、この点に関しても、自分はまだまだ努力不足であると痛感しました。

ふたつ目の「プレゼンテーションを上達させる」ことに関してですが、今回の研修では、英語で自分の意見を述べたり、英語でプレゼンテーションを行う機会が非常に多く、私の目標とするところに、一歩近づいたのではないかと思います。特に、**Medical Ethics** のクラスでは、与えられたテーマに正しい答えがなく、自分の意見を自由に述べることができました。このクラスを通して、自分の考えを持ち、それを誰かに伝えたいという気持ちが、英語でどのように表現するのが最も的確に伝わるかということを考えることにつながり、そして、このことが、英語の学習に重要であるということを実感しました。

6回生ということで、医師国家試験の勉強や、マッチングの試験で忙しい時期でしたので、助成決定後も参加することに少し迷いがありましたが、非常に有意義な経験をさせていただきました。ハワイを訪れるのは今回が初めてだったのですが、天候にも恵まれ、ハワイの空と海は私が想像していた以上に大きく、青く美しく、キラキラと輝いていました。また、今回の研修で出会った全国から集まった医学生たち、先生方、スタッフの方々、みなさんが、ハワイの空と海のように素敵なお方ばかりでした。日常とは違う環境に身を置くことで、自由な発想ができ、新しい発見があり、将来の選択肢が広がりました。今回の研修での経験を生かし、少しでも社会に貢献できる医師になれるよう、日々努力してまいります。